

JOA最近の動きから

(1) 全日本大会

ロング：毎年計画的に開催できるよう「全日本委員会」が主体としてJOAの若手理事の熱い思いもあり体制がリニューアルされました。競技大会として魅力のあるコース、演出がされています。運営パワーとしてプロが活躍しています。

スプリント、ミドル：運営が不安定で軌道にのせるべく努力中です。トレイン、開催日もなかなか候補がなく、苦労している状況です。

リレー：今のところ国体開催県での開催ローテーションを守るべく頑張っていますが、OLが盛んでない地区では、JOAからスタッフが応援に行っています。

JOCからの補助金を獲得していますが、定期開催を守り、競技性を落とさない体制のため参加費が従来より高くなってきています。

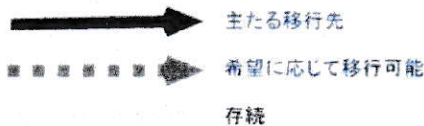
(2) 指導者制度

JOCへの加盟で、これまでの協会資格が日本スポーツ協会の公認コーチ制度にリニューアルしています。(移行中)

競技の指導をできる「コーチ」のほか、大会運営の「イベントディレクタ」等に分かれます。(下図)

指導員制度の概要と移行

現行制度			新制度		
指導者資格	主たる活動分野	概要	指導者資格	主たる活動分野	概要
ディレクタ1級	普及・競技力向上・競技会運営	100人程度の規模の大会を企画・運営ができるとともに、地域クラブ等での技術的・運営面での指導ができる	コーチ2	競技力向上	オリエンテーリング競技の専門知識・技能及び指導力を活かし、指導者の育成指導を行うと共に中心的役割を担って地域クラブの育成等の指導ができる
ディレクタ2級	普及・競技力向上・競技会運営	練習会等限定された参加者に対する指導場面の企画・運営ができる	コーチ1	競技力向上	オリエンテーリング競技の専門知識・技能及び指導力を活かし、地域クラブの教室等に於いて主に初級者を対象とした指導ができる
インストラクタ	普及	初級者に対してオリエンテーリングの基礎的技術の指導ができる	インストラクタ	普及	一般の人に対してオリエンテーリングの指導ができる(例として、大会の初心者説明)
ナビゲーションインストラクタ	普及	一般活動者に対してオリエンテーリング以外(登山等)のナビゲーション・読図の指導ができる	ナビゲーションインストラクタ	普及	一般活動者に対してオリエンテーリング以外(登山等)のナビゲーション・読図の指導ができる
イベントアドバイザー	競技会運営	技会が競技規則に準拠して行われていることを確認する	イベントアドバイザー	競技会運営	競技会が競技規則に準拠して行われていることを確認する
			イベントディレクタ	競技会運営	大会運営の技能(地図、コース設定、コースコントロール、運営全般)を持ち、大会の質維持を担う



(3) JOA長期計画(地域活性化)

JOAの長期計画を策定中で、その中で地域活性化が重要なテーマです。競技者が減少し、JOA会費や事務局を維持できず、JOA退会を考えている県協会が多数あり、厳しい状況です。活性化に向けた施策を検討中です。(別紙)

3月18日(土)13:30-Zoomによる「JOA地域活性化討論会」を開催します。是非、ご参加ください。

(4) コンプライアンス強化

JOCからの要求もありコンプライアンス強化をしています。

大会経費の適正な支出ルール、理事の長期在任の禁止、女性理事率のUP、定期的なコンプライアンス監査や研修の実施などを行っています。

(5) JOA財政健全化

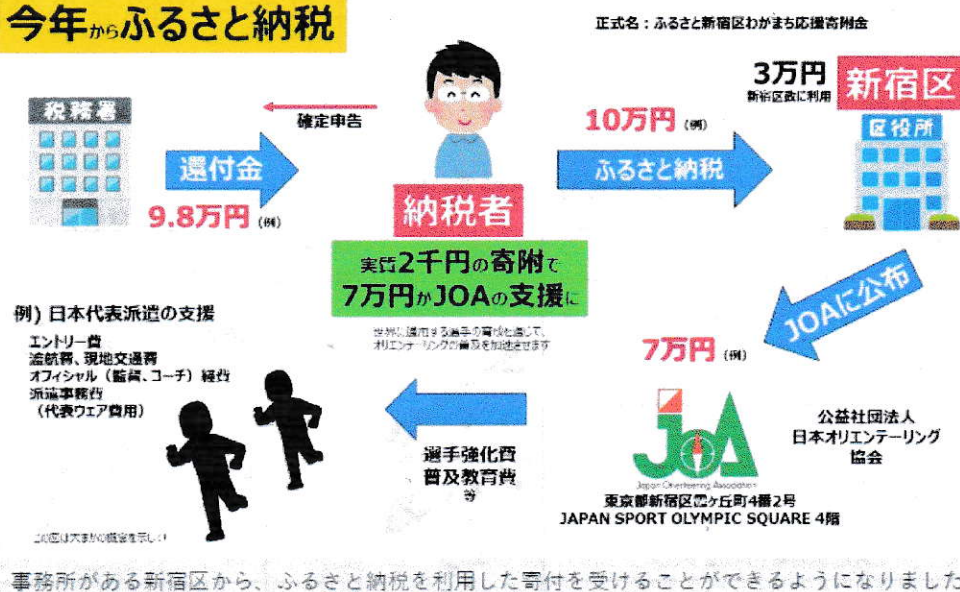
JOA自体も慢性的な財政難から競技者登録料のUPなど皆様のおかげで健全化してきていますが、まだ不足もあり、イベントの開催、JOC助成金獲得などの努力をしています。

また、「ふるさと納税」を活用してご寄付のお願いもしています。

https://www.orienteering.or.jp/joa-about/kifu/furusato_shinjuku/

ふるさと新宿区わがまち応援寄附金について

今年からふるさと納税



(6) 国際大会への出場、IOFと関係

コロナも落ち着きつつあり、各種国際大会への選手派遣も復活しつつあります。Webなどで是非、応援お願いします。

国内での競技会に欠かせないドーピング検査体制のため、WADA (世界アンチドーピング機構) への加盟や、IOFでの活動として、地図のルールやアジア地区での普及先導などでJOAの役員が活躍しています。

・地方会員の現状

日本オリエンテーリング協会（JOA）は、都道府県を単位とする正会員から成り立っています。現在37の都道府県が加盟しており、これに加えて日本学生オリエンテーリング連盟と日本デフオリエンテーリング協会が正会員です。この各都道府県協会（以下県協会と略します）の運営、維持が困難になってきているところが、大都市圏やその近郊を除くと増えてきています。

以前から県協会は、多くの人のボランティアかつ献身的な努力で支えられてきました。しかし、特に競技人口が少ない地域では、支える人の高齢化が進み、県協会組織の維持が難しくなりつつある一方で、収益を上げるようなイベントを開催することも財政的な面からまなならず、それによる活動の停滞という悪循環に陥っている状況です。

JOAの取り組みとしては、地域活性化支援金の交付などを行ってきましたが、そのための事務手続きすら困難な県協会もあるようですし、またその資金源にも限界が見えてきています。過去においては、個人レベルの頑張りで維持、活動してきたところもありますが、個人の力では限界があります。各県協会の維持には多くの方々の力が必要ですので、改めて多くの皆様のご協力をお願いする次第です。

・地方会員組織がなくなると

県協会がなくなってしまうと、その地域でオリエンテーリングのイベントを開催することは、地元交渉などの面から極めて難しくなります。参加できるイベントがないと、オリエンテーリングを知る機会が無くなりますので、新しい人が育ちません。

また、日本のスポーツ界においては、多くの場面で都道府県という行政区域単位で話が進められますが、例えば大きなマルチスポーツイベントの企画があったとしても、受け皿がなければそれにオリエンテーリングが参画することがほぼ不可能になってしまいます。県協会の組織がなくなってゆくことは、単にJOAという組織、会員数の維持という問題だけではなく、日本でのオリエンテーリングの衰退につながります。

一方、参加者・競技者という立場から見ると、地方にはまだまだ魅力的なトレインがあると思われ、未知のトレインを走ってみたいと思われる方も多いのではないのでしょうか。そのためにも地方の県協会の喪失は何としても避けたいところです。

・考えられる対策

この現状に対して、JOA地域活性化委員会ではいくつかの対策案を検討しています。課題としては、人的な支援対策と、金銭的な支援対策が大きなテーマですが、地方行政や教育界とのかかわりも大切であると考えています。

1) 集まって楽しむ場を作る。

人出をかせずに楽しめるフィールドの確保と集まる機会（大規模でなくともよい）の創作。そのための青少年向け野外活動施設との協力やパーマネントコースの見直し。

2) 人的ネットワークを作る

競技者登録者への情報発信。ブロック単位での共助。全日本リレーなどを利用した人的交流の促進。

3) 資金的バックアップ

支援したい県に競技者登録費を納める「ふるさと納税」制度。支援基金の設立。地域やブロックを支援するための大会を人口の多い地域で開催する。JOA会費のあり方の見直し。

他にもさまざまな方法があるかと思えます。皆様からのアイデアを募集したいと思います。

・積極的なサポートのお願い

オリエンテーリングの愛好家の皆様には、改めて地方会員組織の活性化に向けてのご協力をお願いしたいと存じます。

まず出来ることは、地方の大会に参加することかと思えます。練習会として、あるいは観光がてら、未知の地方のイベントに出てみてはいかがでしょうか。魅力的なトレインが待っているかもしれません。

そして、可能であれば皆様がお持ちの技術、ノウハウ、さらにその大元にある情熱を各県協会の活性化のために提供していただけませんか。県協会組織も世代交代を進めてゆく必要があります。特に若い皆さんには、出身地であるかどうかにかかわらず、興味を持った地域の協会の方に積極的に声をかけていただき、その地域のオリエンテーリングに参画していただけることを期待します。

令和5年1月

JOA副会長 愛場庸雅

JOA地域活性化委員会 委員長 新帯 亮

(以下参考)

<グラフ>

- ・会員支援額の推移（左グラフ）：年々増加傾向。支援を必要とする会員数が増加。
- ・公認料と残額の推移（右グラフ）：2018年ころより年々減少傾向。1~2年で原資不足の可能性

